

2022年 昼間部

科目		医療概論	
科目分野	専門基礎 分野	学期	前期
学年	1 年次	担当教員	久坂 健太
単位数	1 単位		実務経験
【授業の概要】 授業形態 講義			
過去の時代に生き、医療を行った人々の功績を学び、医療従事者としての姿勢、職業倫理を考えていく。			
【到達目標】			
過去の医療と変遷を理解し、今後の医療を検討できるよう考える。 現代の医療の課題、医療制度を理解し、課題解決の提案、また具体的に制度を活用できる力を身につける。			
回	授業計画	回	授業計画
1	医学史序説 医学史の意義と特質	16	
2	西洋医学史 古代の医学	17	
3	西洋医学史 中世の医学	18	
4	西洋医学史 17～19世紀の医学	19	
5	西洋医学史 19～20医学	20	
6	中国の医学	21	
7	日本医学史 古代～中世の医学	22	
8	日本医学史 近世の医学	23	
9	日本医学史 近代の医学	24	
10	近代医学の課題	25	
11	現代の医療制度 医療従事者と医療経済	26	
12	現代の医療制度 医療保険の仕組み	27	
13	現代の医療制度 介護保険制度	28	
14	試験	29	
15	医療従事者としての倫理	30	
教科書 参考書等	医療概論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 適宜配布する資料をメインに進めていく。		
評価方法	筆記試験の結果から評価する。 60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

2022年 昼間部

科 目		運動器解剖学			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期		
学 年	1 年次	担当教員	大久保直子		
単位数	2 単位		実務経験		
【授業の概要】 授業形態 講義					
あん摩マッサージ指圧師に必要な運動器系の解剖学を学習する。 骨や筋肉を正しく理解し、指圧実技修得の基礎を構築するとともに、次年度以降の科目の土台をつくる。					
【到達目標】					
骨の名称、筋肉の名称、付着部位、作用、支配神経を正しく述べるができる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	第10章運動器系 総論		16	第10章運動器系 頭蓋の骨	
2	第10章運動器系 関節の種類		17	第10章運動器系 運動・体幹の筋	
3	第10章運動器系 脊柱		18	第10章運動器系 体幹の筋	
4	第10章運動器系 脊柱		19	第10章運動器系 体幹の筋	
5	第10章運動器系 胸郭		20	第10章運動器系 上肢の筋	
6	第10章運動器系 上肢の骨		21	第10章運動器系 上肢の筋	
7	第10章運動器系 上肢の骨		22	第10章運動器系 上肢の筋	
8	第10章運動器系 上肢の骨		23	第10章運動器系 上肢の筋	
9	第10章運動器系 上肢の骨		24	第10章運動器系 下肢の筋	
10	第10章運動器系 下肢の骨		25	第10章運動器系 下肢の筋	
11	第10章運動器系 下肢の骨		26	第10章運動器系 下肢の筋	
12	第10章運動器系 下肢の骨		27	第10章運動器系 下肢の筋	
13	第10章運動器系 下肢の骨		28	第10章運動器系 頭頸部の筋	
14	前期定期試験		29	中期定期試験	
15	第10章運動器系 頭蓋の骨		30	第10章運動器系 頭頸部の筋	
教科書 参考書等		『解剖学』第2版 東洋療法学校協会 編			
評価方法		原則、定期試験と出席状況で評価する。 授業態度や小テストを加えることもある。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

2022年 昼間部

科目		英語	
科目分野	基礎 分野	学 期	前 期
学 年	1 年次	担当教員	野川 奈美恵
単位数	2 単位		実務経験
【授業の概要】 授業形態 講 義			
お客様に満足いただける施術を提供できるように、自己紹介と施術に必要な専門用語、ならびに必要とされる会話を身につける。コーチングをとおして卒業後のありたい姿を考える。			
【到達目標】			
・英語での自己紹介ができるようになる。・施術に必要な専門用語を覚えて会話ができるようになる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	4月9日 オリエンテーション	16	
2	4月16日 Unit 1	17	
3	4月23日 Unit 2	18	
4	4月30日 Unit 3	19	
5	5月7日 Unit 4/Unit 5(ビデオ視聴)	20	
6	5月14日 Unit 8	21	
7	5月21日 Unit 9	22	
8	5月28日 Unit 10	23	
9	6月4日 英語自己紹介作成説明(ビデオ視聴)	24	
10	6月11日 英語自己紹介作成	25	
11	6月18日 英語自己紹介作成	26	
12	6月25日 前期試験(1)	27	
13	7月2日 前期試験(2)	28	
14	7月9日 前期試験 予備日	29	
15	7月23日 試験解答、解説	30	
教科書 参考書等	Medical English Clinic (センゲージラーニング株式会社)		
評価方法	1. 期中に実施する小テスト 2. 英語での自己紹介テスト 3. 授業の受講態度		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

2022年 昼間部

科目		基礎指圧実技		
科目分野	専門 分野	学 期	前 中 後 期	
学 年	1 年次	担当教員 (実務経験)	小林秋朝(治療院経営46年)	
単位数	7 単位		浪越雄二(治療院勤務31年) 黒沢純一(治療院勤務22年) 青木美稚子(治療院勤務9年)、大木慎平(治療院経営5年)	
【授業の概要】 授業形態 実 技				
<p>創始者浪越徳治郎先生の基本指圧、基本指圧の全身操作の順序、指の使い方、姿勢、圧の入れ方等を学ぶすなわち全身指圧の習得。及び自己指圧、坐位指圧の習得。 授業の進行は予定の進度表に準じて反復繰り返し進めて行います。</p>				
【到達目標】				
<p>全身の基本圧点を正確に圧せるようになる。指圧の3原則＝垂直圧。持続圧。集中の原則ができるようになる。圧の加減すなわち漸増、漸減圧をコントロールできるようになる。全身を90分で施術することができるようにする。</p>				
回	授業計画		回	
1	【前期】 オリエンテーション 自己指圧 頭部(顔面部)		26	仰臥位 下肢①+②
2	自己指圧 頸部 頭部・顔面部復習		27	仰臥位 下肢①+②
3	自己指圧 腹部		28	伏臥位 伏臥位①(後頭部～肩甲間部)
4	自己指圧 上肢		29	伏臥位 伏臥位①(後頭部～肩甲間部)
5	自己指圧 下肢		30	伏臥位 伏臥位②(肩甲下部～腸骨稜上部)
6	自己指圧 背部・腰部		31	伏臥位 伏臥位②(肩甲下部～腸骨稜上部)
7	座位 頸部～肩甲間部～脊柱なでおろし		32	伏臥位 伏臥位③(仙骨部～大腿後側部)
8	座位 頸部～肩甲間部～脊柱なでおろし		33	伏臥位 伏臥位③(仙骨部～大腿後側部)
9	座位 頸部～肩甲間部～脊柱なでおろし		34	伏臥位 伏臥位④(膝窩部～背部調整法)
10	仰臥位 頭部		35	伏臥位 伏臥位④(膝窩部～背部調整法)
11	仰臥位 頭部		36	伏臥位 伏臥位①+②+③+④
12	仰臥位 顔面 *感染症拡大状況により変動あり		37	伏臥位 伏臥位①+②+③+④
13	仰臥位 顔面 *感染症拡大状況により変動あり		38	伏臥位 伏臥位①+②+③+④
14	仰臥位 上肢①(腋窩部～前腕部)		39	復習 仰臥位 頭部・(顔面部)・上肢
15	仰臥位 上肢①(腋窩部～前腕部)		40	復習 仰臥位 下肢
16	仰臥位 上肢②(三角胸筋溝～上肢伸展)		41	復習 伏臥位
17	仰臥位 上肢②(三角胸筋溝～上肢伸展)		42	実技試験
18	仰臥位 上肢①+②		43	実技試験
19	仰臥位 上肢①+②		44	実技試験
20	仰臥位 上肢①+②		45	予備日
21	仰臥位 下肢①(大腿前側部～大腿外側部)		46	【中期】 横臥位 横臥位①(頸部)
22	仰臥位 下肢①(大腿前側部～大腿外側部)		47	横臥位 横臥位①(頸部)
23	仰臥位 下肢②(膝蓋骨周囲部～下肢伸展)		48	横臥位 横臥位①(頸部)
24	仰臥位 下肢②(膝蓋骨周囲部～下肢伸展)		49	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱なでおろし)
25	仰臥位 下肢①+②		50	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱なでおろし)

51	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱なでおろし)	79	復習 横臥位 伏臥位 通し
52	横臥位 横臥位①+②	80	復習 試験に向けて自由練習
53	横臥位 横臥位①+②	81	復習 試験に向けて自由練習
54	横臥位 横臥位①+②	82	復習 試験に向けて自由練習
55	仰臥位 胸部(左肋間部～なでおろし)	83	実技試験
56	仰臥位 胸部(左肋間部～なでおろし)	84	実技試験
57	仰臥位 腹部①(触診～小腸部)	85	実技試験
58	仰臥位 腹部①(触診～小腸部)	86	実技試験
59	仰臥位 腹部②(下行結腸部～振動掌圧)	87	実技試験
60	仰臥位 腹部②(下行結腸部～振動掌圧)	88	実技試験
61	仰臥位 腹部①+②	89	予備日
62	仰臥位 腹部①+②	90	予備日
63	仰臥位 腹部①+②	91	【後期】 全身操作
64	復習 仰臥位 頭部・(顔面部)・上肢	92	全身操作
65	復習 仰臥位 下肢	93	全身操作
66	復習 仰臥位 上肢下肢 通し	94	全身操作
67	復習 仰臥位 胸部 腹部	95	全身操作
68	復習 仰臥位 通し	96	全身操作
69	復習 横臥位	97	全身操作
70	復習 伏臥位	98	全身操作
71	復習 横臥位 伏臥位 通し	99	全身操作
72	復習 仰臥位 頭部・(顔面部)・上肢	100	全身操作
73	復習 仰臥位 下肢	101	全身操作
74	復習 仰臥位 上肢下肢 通し	102	実技試験
75	復習 仰臥位 胸部 腹部	103	実技試験
76	復習 仰臥位 通し	104	実技試験
77	復習 横臥位	105	実技試験
78	復習 伏臥位		
教科書 参考書等	指圧療法学 改訂第1版② 国際医学出版		
評価方法	出席状況、授業態度、定期試験による評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

2022年 昼間部

科 目		形態機能生理学	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期
学 年	1 年次	担当教員	金子 智久
単位数	2 単位		実務経験 治療院勤務3年、出張治療院経営19年
【授業の概要】 授業形態 講義			
<p>あん摩・マッサージ・指圧師を目指すものにとって、生理学は解剖学と並んで双壁をなす重要専門基礎科目である。臨床各科目の基礎となり、国家試験においても臨床的比重は重い。また、あん摩・マッサージ・指圧の作用機序を理解するためには必要不可欠である。これらの事を考慮して、テキストを十分理解し、基礎を固めることを目的とする。</p>			
【到達目標】			
<p>あん摩・マッサージ・指圧の作用機序について生理学的に説明できる。また、細胞の構造・機能、体液の組成、循環、呼吸、消化と吸収、代謝、体温、排泄、内分泌系について生理学的に説明でき、臨床医学各科目の基礎・土台を築き、生理学的に解釈できる。</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	オリエンテーション、生理学とは	16	消化と吸収① 構造と機能、口腔内の消化
2	生理学の基礎1 細胞の構造と働き	17	消化と吸収② 胃内の消化、小腸内の消化と吸収
3	生理学の基礎2 物質代謝の仕組み	18	消化と吸収③ 大腸内の消化と吸収 排便
4	生理学の基礎3 体液の組成と働き、物質の移動	19	消化と吸収④ 消化管ホルモン 肝臓の働き
5	循環① 総論、赤血球	20	代謝① 栄養素とエネルギー代謝
6	循環② 白血球、免疫系の役割、血小板	21	代謝② 三大栄養素、ビタミン無機質 水
7	循環③ 血漿、血液凝固の仕組み、血液型	22	体 温 部位差と変動 産熱と放熱 体温調節
8	循環④ 心臓の構造と機能、心筋の基本性質	23	排 泄① 腎臓の構造と働き 尿の組成
9	循環⑤ 刺激伝導系、心電図、心臓の神経支配	24	排 泄② 腎臓による体液の調節
10	循環⑥ 血管系の構造と機能、血圧	25	内分泌① ホルモンの特徴
11	循環⑦ 循環の調節、特殊な部位の循環	26	内分泌② 内分泌腺の働きa
12	循環⑧ 特殊な部位の循環(続き)、リンパ	27	内分泌③ 内分泌腺の働きb
13	呼吸① 呼吸気系の構造と機能、呼吸運動	28	内分泌④ 内分泌腺の働きc
14	呼吸② 肺機能、ガス交換とガスの運搬、期末試験	29	生殖・成長① 生殖・成長・老化、期末試験
15	呼吸③ 呼吸運動の調節	30	生殖・成長② 生殖・成長・老化
教科書 参考書等	生理学 第3版 社団法人 東洋療法学校協会 編 適時プリントを配布する。		
評価方法	客観的試験考査及び出欠席、授業態度、到達度評価試験等を総合して評価する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

2022年 昼間部

科目		心理学	
科目分野	基礎 分野	学期	前 期
学年	1 年次	担当教員	佐藤美和子
単位数	2 単位		実務経験
【授業の概要】 授業形態 講義			
前半は、心理学の基礎的な理論、「人の心を理解する」について解説する。また、後半は、対人援助のために必要な臨床心理学の知識、技術について解説し、自己理解、他者理解、コミュニケーションについて演習を行う。			
【到達目標】			
心理学の講義を通して、人の心に興味を持ち、対人援助のための知識やスキルを身につけ、日常生活や仕事に活かすことができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	オリエンテーション:授業概要について知る。 『心理学って何?』	16	
2	行動と学習:人はなぜそのように行動するか	17	
3	知覚・認知・記憶:人は世界をどうとらえるのか	18	
4	発達①:人は時間とともにどのように変わるのか (誕生から成人)	19	
5	発達②:人は時間とともにどのように変わるのか (成人から老年)	20	
6	パーソナリティ:個人差を知る・自分を知る	21	
7	集団・社会:他者を知る・集団や社会を知る	22	
8	心理アセスメント:こころをどの様に評価するのか	23	
9	心の健康:ストレスとは何か	24	
10	精神疾患と不適応:こころが病むとはどういうことか	25	
11	心理療法:こころを治すとはどういうことか	26	
12	カウンセリングの技法:「傾聴」とは	27	
13	カウンセリングの技法:適切に「伝える」とは	28	
14	前期試験	29	
15	コミュニケーション:よりよいコミュニケーションとは	30	
教科書 参考書等	教科書用図書 なし。必要に応じて資料を配布する。 参考図書 「徹底図解 心理学」 新星出版社		
評価方法	講義最後のレポート(10%) 前期試験結果(90%)を合計して評価する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

2022年 昼間部

科目		神経系解剖学	
科目分野	専門基礎 分野	学期	前中 期
学年	1 年次	担当教員	大久保直子
単位数	2 単位		実務経験
【授業の概要】 授業形態 講義			
あん摩マッサージ指圧師に必要な神経系の解剖学を学習する。 各神経の働きを理解し、次年度に学習する臨床系科目の基礎を構築する。			
【到達目標】			
神経系の名称、各神経の走行や働きを述べるができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	第1章人体の構成 神経系の基礎	16	第8章神経系 脳神経
2	第8章神経系 大脳 大脳皮質	17	第8章神経系 脳神経
3	第8章神経系 大脳 大脳辺縁系	18	第8章神経系 脳神経・頸神経
4	第8章神経系 大脳 大脳髄質	19	第8章神経系 腕神経叢
5	第8章神経系 大脳・脳室	20	第8章神経系 腕神経叢
6	第8章神経系 間脳・小脳	21	第8章神経系 胸神経・腰神経
7	第8章神経系 中脳・橋・延髄	22	第8章神経系 腰神経・仙骨神経
8	第8章神経系 延髄、脳の血管	23	第8章神経系 仙骨神経
9	第8章神経系 脊髄	24	第8章神経系 陰部神経・自律神経
10	第8章神経系 伝導路	25	第9章感覚器系 自律神経
11	第8章神経系 頭蓋骨と脳神経	26	第9章感覚器系 視覚器
12	第8章神経系 脳神経	27	第9章感覚器系 平衡聴覚器
13	第8章神経系 脳神経	28	第9章感覚器系 平衡聴覚器
14	前期定期試験	29	中期定期試験
15	第8章神経系 脳神経Ⅶ	30	味覚器、嗅覚器、演習
教科書 参考書等	『解剖学』第2版 東洋療法学校協会 編		
評価方法	原則、定期試験と出席状況で評価する。 授業態度や小テストを加えることもある。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

2022年 昼間部

科 目		神経機能生理学	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期
学 年	1 年次	担当教員	大木 慎平
単位数	2 単位		実務経験 治療院経営5年
【授業の概要】 授業形態 講義			
ヒトの身体の神経、筋、運動、感覚、生体防御の機能を学び、今後の学修の基礎を身につける。			
【到達目標】			
神経機能の機序を理解し、説明することができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	神経1 ニューロンの構造と働き	16	運動2 骨格筋の神経支配②
2	神経2 神経線維の興奮伝導	17	運動3 運動の調節①
3	神経3 シナプス伝達	18	運動4 運動の調節②
4	神経4 中枢神経系① 分類と機能、反射、脊髄	19	運動5 運動の調節③
5	神経5 中枢神経系② 脳幹、小脳、視床	20	運動6 錐体路系と錐体外路系
6	神経6 中枢神経系③ 大脳、脳脊髄液	21	感覚1 感覚の分類と性質、体性感覚
7	神経7 末梢神経系① 脳神経	22	感覚2 内臓感覚、痛覚
8	神経8 末梢神経系② 脊髄神経	23	感覚3 味覚と嗅覚
9	神経9 自律神経系① 概要	24	感覚4 聴覚、平衡感覚
10	神経10 自律神経系② 興奮伝達	25	感覚5 視覚
11	神経11 自律神経系③ 中枢、反射	26	生体の防御機構1 防御因子①
12	筋1 骨格筋の構造と働き、収縮の仕組み	27	生体の防御機構2 防御因子②、免疫反応
13	筋2 筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋	28	身体活動の協調1 ホメオスタシス①
14	前期試験	29	中期試験
15	運動1 骨格筋の神経支配①	30	身体活動の協調2 ホメオスタシス②
教科書 参考書等	生理学 第3版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 適宜配布する資料をメインに進めていく。		
評価方法	各期の筆記試験から評価する。また、各章ごとに実施する小テストの結果も加点対象とする。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

2022年度 昼間部

科目		内臓器系解剖学			
科目分野	専門基礎 分野	学期	前期	中期	
学年	1 年次	担当教員	飯村 彰		
単位数	2 単位		実務経験		
【授業の概要】 授業形態 講義 人体の循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器、生殖器系、内分泌系の構造を理解し、各部の名称を把握する。					
【到達目標】 各器官系の構造を理解すると共に器官系の隣接関係を理解し、疾患の診断・治療を学修する基礎を構築する。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	人体の構成	細胞、組織	16	消化器系	消化管の基本構造、口腔
2	人体の構成	組織、体表構造	17	消化器系	咽頭
3	人体の構成	体表構造	18	消化器系	食道、胃
4	循環器系	2章 循環器	19	消化器系	小腸、大腸
5	循環器系	2章 循環器	20	消化器系	肝臓
6	循環器系	2章 循環器	21	消化器系	胆嚢、膵臓
7	循環器系	2章 循環器	22	消化器系	腹膜
8	循環器系	2章 循環器	23	泌尿器系	腎臓
9	循環器系	体幹の脈管、上肢の脈管	24	泌尿器系	尿路
10	循環器系	上肢の脈管、下肢の脈管	25	生殖器系	男性生殖器
11	循環器系	下肢の脈管、頭頸部の脈管	26	生殖器系	女性生殖器
12	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔	27	生殖器系	受精と発生
13	呼吸器系	咽頭、喉頭	28	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体
14	呼吸器系	気管・気管支、肺	29	内分泌系	副腎、膵臓、性腺
15	総合復習		30	総合復習	
教科書 参考書等		医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 河野邦雄、伊藤隆造著 解剖学			
評価方法		試験を主としてレポート			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:70～89点 (3)C:60～69点 (4)D:60点未満			

2022年 昼間部

科目		保健体育	
科目分野	基礎 分野	学期	前中 期
学年	1 年次	担当教員	瀧野 辰雄
単位数	2 単位		実務経験
【授業の概要】 授業形態 講義			
<p>施術者が臨床において遭遇する可能性のある「健康」、「運動」に関する相談について適切な情報提供を行うことができる知識を身につけるため、運動と心の健康、スポーツの上達過程、高齢化社会と健康、筋力トレーニングと体力向上、運動やスポーツでの安全確保などのテーマについて概説する。</p>			
【到達目標】			
<p>充実した生活を送るうえで、心身が健康であることは重要である。さらに将来、就職した際に健康に関する知識を修得していることは、職業柄必須であると言える。本授業を通して身体的な健康のみならず心理的な健康の知識や運動・スポーツの知識を深めることを目指す。</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	前期ガイダンス	16	中期ガイダンス・応急手当の意義
2	私たちの健康のすがた・とらえ方	17	応急手当の基本と日常的な応急手当
3	健康と意思決定・環境づくり	18	心肺蘇生
4	生活習慣病・食事	19	高齢化社会と健康
5	運動・休養・睡眠と健康	20	働くことと健康
6	喫煙と健康	21	現代社会とこれから
7	心身の相関とストレス	22	オリンピック・パラリンピック
8	運動と心の健康	23	ウォーミングアップ・ストレッチ・ケア
9	心の健康と自己実現	24	筋力トレーニングと体力向上
10	心の健康とトレーニング	25	持久的トレーニングと体力向上
11	人間にとって「動く」とは何か	26	運動やスポーツでの安全確保
12	スポーツの上達過程	27	私たちの暮らしと健康
13	スポーツと体力	28	私たちの健康とは
14	前期理解度確認(前期テスト)	29	中期理解度確認(中期テスト)
15	フィードバック・前期保健体育まとめ	30	フィードバック・保健体育まとめ
教科書 参考書等	使用しない。毎時間、資料を配布する		
評価方法	出席状況(30%)、課題提出(20%)、前期試験及び後期試験の評価(50%)を合計して評価する。各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。</p> <p>(1)A: 90～100点 (2)B: 80～89点 (3)C: 70～79点 (4)D: 60～69点 (5)F: 60点未満</p>		

2022年度 昼間部

科目		社会福祉	
科目分野	基礎 分野	学 期	中 期
学 年	1 年次	担当教員	工藤 豪
単位数	2 単位		実務経験
<p>【授業の概要】 授業形態 講 義</p> <p>わが国における社会福祉の歴史的展開を社会経済状況と関連させながら把握する。また、人口高齢化についての基本的知識を理解するとともに、少子化の定義・推移・要因・影響などについて考察を深める。そして、わが国における社会保障の仕組みを確認し、医療・介護・年金・生活保護の特質や課題について講義する。</p>			
<p>【到達目標】</p> <p>なぜ日本は少子高齢化が著しいのか？、なぜ日本は少子化を克服することができないのか？、少子高齢化が著しいと医療・介護・年金・生活保護など社会保障にどのような影響が及ぼされるのか？などについて説明できるようになる。</p>			
回	授業計画	回	
1	社会福祉の歴史的展開(1)—戦前の日本—	16	
2	社会福祉の歴史的展開(2)—戦後の日本—	17	
3	人口高齢化(1)—世界と日本の人口動向—	18	
4	人口高齢化(2)—人口高齢化の概念と推移—	19	
5	人口高齢化(3)—人口移動と老年人口割合—	20	
6	少子化(1)—合計出生率の推移とその背景—	21	
7	少子化(2)—少子化の要因と対策—	22	
8	少子化(3)—未婚化の背景—	23	
9	社会保障と社会福祉(1)—社会保障制度—	24	
10	社会保障と社会福祉(2)—医療保険制度①—	25	
11	社会保障と社会福祉(3)—医療保険制度②—	26	
12	社会保障と社会福祉(4)—介護保険制度—	27	
13	社会保障と社会福祉(5)—年金保険制度—	28	
14	試験	29	
15	社会保障と社会福祉(6)—生活保護制度—	30	
教科書 参考書等	教科書は使用しません。資料を配付します。参考文献は適宜、紹介します。		
評価方法	試験(60%)、受講態度(20%)、リアクションペーパー(20%)から総合的に評価する。		
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:70～89点 (3)C:60～69点 (4)D:60点未満</p>		

2022年度 昼間部

科目		生化学	
科目分野	基礎 分野	学期	中 期
学年	1 年次	担当教員	宇野 茂之
単位数	2 単位		
【授業の概要】 授業形態 講義			
生体を構成する細胞は、如何にしてエネルギーを獲得し活動しているのでしょうか。 ・生体が必要とする物質を理解し、摂取された物質がどのように代謝され、利用されて行くのかを理解する。			
【到達目標】 ・様々な疾患と代謝との関係を生化学的な観点から説明できる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	生化学とは 細胞の構造 細胞小器官の役割	16	
2	細胞膜の特徴 物質輸送	17	
3	タンパク質 タンパク質の分類 アミノ酸の構造と性質	18	
4	タンパク質の高次構造 酵素 酵素の役割 酵素の反応様式	19	
5	酵素による代謝調節と異常症 酵素の臨床診断への応用	20	
6	糖質 糖質の種類 糖質の分解と吸収 糖質の役割	21	
7	脂質 脂質の構造と種類 脂質の特徴 脂質・コレステロール輸送	22	
8	核酸 核酸の構造 転写と翻訳および複製	23	
9	遺伝子の異常と分子医学 遺伝子工学 遺伝病の原因	24	
10	生体物質の代謝 糖質の代謝 ATPの産生	25	
11	脂質の代謝 タンパク質の代謝 尿素回路	26	
12	代謝異常と疾患 ヌクレオチドの代謝	27	
13	ポルフィリン代謝 ポルフィリンの代謝と疾患	28	
14	中期試験	29	
15	中期試験の解説 ビタミン ビタミンの種類 ビタミンの作用	30	
教科書 参考書等	推奨図書:コンパクト生化学(南江堂) わかりやすい生化学(疾病と代謝・栄養の理解のために)(ニューヴェルヒロカワ) トコトンわかる基礎生化学		
評価方法	中期試験の結果で評価する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		